

Olive Tree Ministries: Understanding the time(時代を理解する) 2017年10月7日

Jan Markell, Pastor JD & Amir Tsarfati

『世の中では一体何が起きているのか』

.....

【ジャン】 Understanding the time 2017、ミネソタ州セントポールで本日、2017年10月7日開催です。こちらにいらっしゃるの、講師の先生方です。気になる問題も多々あり、私自身お伺いしたいことがたくさんあります。まずは、アミールさんからお伺いします。前回少しお話した、ヨーロッパの状況について、カンファレンスでもお話していただきますが、正直なところ、ヨーロッパにはクリスチャンはいるのですか？

【アミール】 かなり少数ですが。

【ジャン】 その人たちはどのように暮らしているのですか？この間の、ベルリンからのお話では、人々の顔が空虚感に満ちているとおっしゃっていましたね？

【アミール】 とても大変ですよ。ヨーロッパの外から得られる情報にすぎりついて、信仰を保っています。ヨーロッパは文字通り、霊的に死んでいますから。この間のラジオでも言ったと思いますが、今、携挙が起これば、ほとんどの人は気づかないだろうと思います。それほどひどいのです。しかし、私自身、とても小さな教会の小さな集会にお招きいただく機会に与りました。例えば、イタリアのサンレモという町とか。40~50人の人たちが5つの異なる教会から集まって来たり。人々がもっと知りたいと、とても飢え渴いているのが伝わってきます。数歩下がって、全体像を見ている私たちには見える事でも、ヨーロッパの中心に住んでいると、そこがどれほど暗いのかに気づくのは、とても難しいのです。

【ジャン】 想像がつきます。何か具体的に祈ることはありますか？

【アミール】 そうですね。彼らが、ただ聖書にある通り、終わりまで忍耐をもって耐え抜けるように。他の何でもなく、祝福された希望によって励まされるように祈らなければなりません。実際、他には何の希望もありませんから。

【ジャン】 では、お二人にお伺いします。まずはJD牧師から。現在、聖書的に大きな意味を持つことが、実にたくさん起こっています。中東での配置に、国々はイスラエルを見捨て、被造物は世界的な出来事に呻いています。まだまだ出て来ます。私たちのように、時代をずっと見張っている者は、本当に圧倒されていますが、今日集まる人の中には、一体どうなっているのだろうと、関心を持っている人も少なくないと思います。JD先生は、おもに、神が警笛を鳴らしておられるもの、目を引くための兆候とされているものは何だと見ておられますか？これが産みの苦しみだ！神はこれが起こることを許されたのだ！と思う事とは、何でしょう？

【JD牧師】 一言で、「総合」地球規模で起きている事。全てをもって総合的に、今がそれであることが

明確になって来ています。イエスは言われました。

『『これらのこと』が総合的に起こるのを見始めたなら』…何のことか？現在起きている、これらの事です。これらは、どんどん否定できなくなっています。イエスは、

28 これらのことが起こり始めたなら、からだをまっすぐにし、頭を上を上げなさい。贖いが近づいたのです。

(ルカ 21:28)

と言われました。

【ジャン】アミールさんはいかがでしょう？圧倒されますよね？

【アミール】とても圧倒されます。全ての事が、同じことを指し示していると思います。しかし敵もまた、とてもずる賢くて、主が来られるまで、私たちがすべき事に集中する代わりに、別の事に私たちがこだわるように仕向けます。私たちが今、すべきなのは、働くことです。

【ジャン】私は、とにかく信者を励ますために働いています。現在起きていることに押しつぶされないように。ただ、起きていることの全てに、私たちの家族や友人、職場でも、あらゆる人が動揺していて、自分が落胆しないようにするのは、とても難しいのです。常に天に目を向けていないと…

【アミール】だから、コロサイ人への手紙3章2節なのです。

2 …天にあるものを求めなさい。

(コロサイ 3:2)

それと、ヘブル12章

1 …私たちの前に置かれている競争を忍耐をもって走り続けようではありませんか。

2 信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。…

(ヘブル 12:1~2)

私たちは周りを見て、そこから励みを見つけることは出来ません。周りは、暗闇と背教と、とんでもないですから。しかし、私たちには大きな希望があります。

【ジャン】また、別の事に関して、お二人のご意見をお聞かせください。「だから何？」と言った反応も多く、そこをどう打破していくか。これもまた預言されていたことで、ノアの時代の反応ですが、教会の中にそういった人が多くいると思います。JD先生、どうですか？

【JD 牧師】まるで何も問題がないかのように生きている人を見るのは、とても胸が痛みます。

【ジャン】本当に、その通り！

【JD 牧師】 だからこそ、私は大声で警告し、警笛を鳴らすのです。とても面白いことに、クリスチャンの中に2つのタイプがいるんです。一方は、まるで何も起こっていないかのように生きている人たち、もう一方は、目覚めているクリスチャンです。感謝な事に…感謝な事です。

【アミール】 また、聖書預言に関しても、たくさんのデタラメが出回っていて、多くの人に関わりたくないと思わせています。

【ジャン】 そうですね。それもまた胸が痛みます。最近もまた、ありましたが。1988年にもありましたし、彼らは日付を次々と設定して、恥ずかしい限りです。これもまた、悲劇です。お二人にお伺いします。JD先生は患難前携挙について講演されますが、患難前携挙説が攻撃されていますね？先生はこれを「サタンの攻撃」と呼んでいらっしゃるようですが、その通りだと思います。でも、これを言うと、物凄く激怒する人がいますよね？彼らは「サタンの攻撃」の意味を理解しません。

【JD 牧師】 私から見れば、これはサタンの的です。これによる影響を考えれば、混乱のカミから来る大変な混乱、兄弟たちの告発者から来る非難、偽りの父から来る嘘。混乱だけを考えてもそうです。最近、コメントにあったのが、「他の説も教えてはどうですか？」銀行が銀行員を訓練する時、偽札を見分けられるようにするためには、本物に徹底して慣れ親しませるそうです。触り、感じ、数え、匂い、全ての感覚でそれを覚えた時に、偽札を忍び込ませると「何かが違う」と分かるのだそうです。ホテルでテレビを観ていた時、ハワイにはこのチャンネルがないので、私は彼の事は全く知りませんでした。5秒もたたないうちに思ったのです。

「何てこった！みんな、これを観ているのか！？これは福音ではなく、使徒パウロが言った『別の福音』で、そんなもの、福音ではない！」

【ジャン】 今、先生がおっしゃったことが、私にもよく分かります。私の所にも、「何故、他の解釈を教えないのか？」といった問い合わせやメールが常に届きますから。「何故御怒り前携挙について教えないんだ！」とか。私は、つじつまの合わない話で、人を混乱させたくありませんから、今、それを言ってください、良かったです。

【アミール】 私はいつも皆さんに聞きます。

「どんな状態で天国に行きたいですか？レア（生）？ミディアム（中間）？ミディアムレア（生焼け）？ウェルダン（しっかり火が通って）？」

つまり基本的に、私に何を話してほしいのか？ということ、

「天国についたとき、半死の状態でいたいですか？それとも、首なしの状態ですか？」

私たちは裁きに定められていない、主は、来る試練の時から私たちを取り去ってくださるのであって、試練の中を私たちが通るのではないと分かっているながら、どうして他の教えが必要なのでしょう。また、JD先生が、携挙が緊迫していることについて教えていますが、一旦、大患難が始まれば、「携挙の緊迫」はゴミと化するのです。患難中期説でも、御怒り前でも、その時期がはっきりと分かりますから。その視

点から見ても、他の選択肢に意味がないことが分かります。

【ジャン】信者として、反キリストを期待するように、とは聖書の何処にも書かれていません。そうと解釈できるような箇所も、それを匂わせるような箇所もありませんものね。

【アミール】混乱の元は、イスラエルと教会だと私は思います。マタイ 24 章、ルカ 21 章、マルコ 13 章を誤って解釈して、イスラエルを示しているところを、彼らは教会だと考えています。でも、よく注意して読まなければなりません。そもそも、もしそこがユダヤ人やイスラエルに言っているものでなければ、何故逃げるのが安息日にならないように、などとあるのでしょうか？（マタイ 24:16~20、マルコ 13:14~18、ルカ 21:20~24 参照）私から見ると、御言葉の確かな教えが欠如していることで混乱を招き、そのために人々が他の選択肢を信じてしまっているように思えます。面白いことに、21 世紀の今、これまでのどの時代よりも多くの方が読み書きできるのに、聖書に関する文盲は、これまでになかったほど最悪です。2000 年前の人々は聖書を持っておらず、読み方も知らなかったのに、聖句をどんどん引用しています。彼らは聖書なんて持っていなかったのに、ですよ。彼らは御言葉に常に浸っていたから、次々と引用出来たのです。現代は、それぞれのご家庭に聖書が 5、6 冊あるのに、御言葉に浸っておらず、学びもしないですから、そのために物凄い混乱が起っています。

【ジャン】この後、アメリカに関する預言についてお話しますが、その前に、JD 先生。あまりにも多くの人が、クリスチャンたちが永遠を見ておらず、楽しみに目を向けていると思います。今の人生をどう楽しむか。そのような生き方が、私には想像もできないのです。全てが崩壊していますから、永遠に目を向けていないと、私は個人的には生きていけません。先生は、牧師として、これにどう対処されていますか？

【JD 牧師】私も、その候補者としてさらに踏み込んで言わせてもらいます。過去にも言いましたが、イエス・キリストがすぐにでも来られるという、祝福された希望、携拳がなければ、大げさでなく文字通り、私は気が狂っていますよ。どうか、ご理解ください。神は私の心をご存知ですが、本当に私は気が狂っていたでしょう。私が今目にしていることが受け入れられなかった。人類史上見たこともないような悪と暗やみが横行していますから。そして、主はそのこともご存知です。主が私に語られた事の一つに、主が彼の花嫁のために戻ることを、心から待ち望んでおられるということ。それは、終わりの時にはどれほど困難があるかを、主はご存知だからです。そして、まさに今は終わりの時です。

【ジャン】アミールさん、ずっと語って来られた、終わりの時のアメリカについて、あなたのお考えを、視聴者の皆さんにお聞かせいただけますか？

【アミール】まず第一に、アメリカという名前は、聖書には出て来ません。だからといって、説教台に立って、「聖書にアメリカは出て来ません。さようなら。」と言って帰ったりもしません。私がいつも検証するのは、そもそも聖書預言の目的は何か？という事です。もしその目的がメシアであり、イスラエルであるなら、それに関連して、アメリカはどこに位置するのか？この問題に取り組む時は、そこを見

なければなりません。そこで私が思うのは、過去にも、イスラエルの民と素晴らしい関係で始まった世界大国が、敵の欺きに陥って崩壊して終わり、イスラエルは、彼らが想像するよりはるかに大きな目的達成のために孤立する例がたくさんあります。私が思うに、初めに国家イスラエルを地上から根絶させようとした帝国はバビロンでした。そのバビロンの核の部分が、世代から世代へ、帝国から帝国へ、現代に至るまで、イギリス、アメリカへと移行していると、私は見えています。しかし今、まさに私たちは目の前で、この殻がヨーロッパに戻って行く様子を目撃していると思っています。なぜかと言えば、ある事故によって、グローバリストの計画に、アメリカを利用しようとしていた者たちの動きが、揺るがされたためです。その事故が昨年11月に起こって、彼らの全てが変わったのです。今では、その事故のために、皆が再びヨーロッパに移行しています。そこが、これの最終地だからです。今日の二つのメッセージは、完全に相互していると思います。アメリカは、大きな役割を果たして、「過去形」です。そして、まさに私たちの目の前で世界大国としての舞台を去りつつある、と私は思っています。そのためには、何かが起こらなければならず、その可能性を今日はお話しますが、アメリカは国家主義に戻り、もはやグローバリストではありません。以上です。それが間もなく起こるでしょう。

【ジャン】中には、アメリカが黙示録のバビロンだと信じている人もいます。私はそうは思いませんが。彼らは、聖書のあちこちにアメリカを描きます。エゼキエル 38、39 章の若い獅子だとか。私たちには、分かりません。アメリカに関する、明確なメッセージはありませんから。それでも、我々も何らかの役割があることは分かります。JD 先生、アミールさんは、昨年 11 月のドナルド・トランプ大統領選が大事事故だと言いましたが、まず第一に、神は笑いのセンスがあると思いませんか？誰も信じられませんから。今日の今日まで、こんなことが起こるなんて、誰も信じられません。でも、これには目的があるはずで、先生は以前、ドナルド・トランプが神の時計を早めるだろうとおっしゃいましたね？それについて、もう少し説明していただけますか？

【JD 牧師】私がそう信じ、そう言った理由は、アメリカ史上の大統領全体を通して、彼は誰よりもイスラエルと良好な関係を築いている点からです。特に、彼の娘婿ジャレッド・クシュナー氏。そう言った意味でも、これまでの誰も、特にバラク・フセイン・オバマには絶対できなかったことが、トランプには可能なのかも知れない。だから私は、トランプに注意深く目を向けています。私はトランプに投票しましたし、私はトランプが大好きですよ。彼の親イスラエル、親クリスチャンの政策と立場が好きです。それでも、私は少し引いてしまうのです。それに関して、今日お話しますが、彼の和平交渉を推し進める事に関しては、私はまだ支持することが出来ないのです。彼は「究極の協議」の名の下に

【ジャン】…交渉の達人として、ですよ？

【JD 牧師】そうです。私にはそれが引っかかって、そのために彼が預言成就の速度を速め得ると思っています。

【ジャン】ドナルド・トランプと和平プロセスについて、アミールさんのご意見をお聞かせください。私たちイスラエルを愛するアメリカ人としては、2 国解決策や何かで、イスラエルを分断しようとするの

が耐えられませんが、あなたはそれに関してどう思われますか？

【アミール】とても興味深いのですが、私はクシュナー氏が協議に提示した用紙を、閲覧する機会をいただいたのですが、そこに書かれていた要点がこれまでと異なるのです。まず第一に、これは仮協議で、最終協議ではありません。それは現状からみて、最終協議の達成はあり得ない、と彼らは理解しているからです。ですから仮協議ですが、ところでこれはパレスチナによって、自動的に拒絶されます。彼らは、現在よりも劣るものには、絶対に合意しません。70年間ずっとこうでしたから。そして、その仮協議にエルサレムは交渉の対象として、含まれてさえいないのです。それよりも、アラブ穏健派たちとの間に、自信を築き、経済的繋がりを築こう、今は大きな問題に取り組むのではなく、この瞬間は協議合意に向けて、少しずつ積み重ねて行こう、という内容です。私がそれほど心配していないのには2つの理由があります。私は、交渉の相手を知っています。また、1947年以來過去70年間、アラブは継続して「否」と言い続けて来た事も、私は知っています。彼らの要求を100%満たさないものに関しては、全て否定です。そして彼らが得るものはどんどん減る一方です。それでも彼らは拒否し続けます。それは、合意するという事は、どんなことであろうとイスラエル主権国家の中にあるあらゆるもの全て、彼らの手中にある東エルサレム、旧市街も、その他何であれ、彼らの手中にあるもの全ての権利を返さなければならない事を、彼らは理解しているのです。そして、イスラエルがユダヤ人国家であると認めることになることも理解しています。それは、中東におけるイスラムとしての彼らの終わりです。だから、私の見る限り、彼らがそれを受け入れるには、イスラムが薄められる改革のような何かが起こらなければならないのです。イスラムが今のようである限り、それはないと私は思いますから。

【ジャン】それは何だと思えますか？

【アミール】戦争だと思えます。

【ジャン】ゴグとマゴグ？

【アミール】はい。

【ジャン】ゴグとマゴグ？

【JD 牧師】それが妥当でしょう。ただ、キーワードがあって、そのキーワードとは「滅び」、それから「突然」です。今日、私はそれをお話しますが、アミールさんが私の前に話すと知らなかったから。(笑)

【アミール】私は全然気にしていないから、大丈夫ですよ。(笑) エゼキエルでも何でも、心配しないで。

【JD 牧師】良かった。ともかく、私は個人的に第一テサロニケ5:3の突然の滅びが、携拳によって突然消えることと同時に起こるといふ思いが、どんどん強くなっています。そう見ると、アミールさんが描いている図に、容易に当てはまる上に、すんなりと馴染むので、私はこれが妥当なシナリオだと思って

います。突然にやって来て、その時、同時に彼の言うようにそれが起こるのだ、と。

【ジャン】携挙後の世について、映画のように誰も予測出来ないと思います。携挙後の世の映像を見てみたいとは思いますが。それも携挙後、ほんの10分ほどの話ですよ。でも、アミールさんが言っておられたように、世界のある部分では、携挙が起こった事に誰も気づかない。また、別の場所では、見事に打撃を受けるでしょう。株価の急落とか、大変な事態が起こります。

【アミール】もしかしたら、それが原因でアメリカが世界大国の座を降りるのかも知れません。

【ジャン】そうですね。

【JD 牧師】それがしっくり来る。

【アミール】それと、それが私たちの希望しているシナリオです。

【JD 牧師】北朝鮮より、そっちの方がずっと良いですよ。特にハワイに住んでいるとね。(笑)

【アミール】今日の講演では、4つのシナリオを提示しますが、最後の希望のシナリオです。他のシナリオは、可能性の低いものからお話して、可能性の高いものを一番最後に持ってきます。とにかく、間違いなくそれが私たちの望んでいる事、私たちは携挙を望みますし、携挙によってアメリカが、もはや世界大国でなくなるとすれば、アーメンです。

【ジャン】今日は2017年10月のカンファレンスなので、ここで全てをお聞きするつもりはありませんが、次の質問をお伺いしたいと思います。私たちの国で、大変な大襲撃事件が起こりました。正直言えば、以前にもありましたが、今回は少し違って、今の時点でもまだ明確にされていないと言いましょか。アミールさんのアップデートを、私も聞きました。彼のアップデートと、JD先生のアップデートを、皆さんもぜひお聞きください。今の時を理解するのに、とてもよく分かります。先日のあなたのアップデートをお聞きしましたが、その中で、あなたはラスベガスの事件とテロとのつながりの可能性を伝えておられましたね。

【アミール】まず、今朝のニュースで、新しい9.11をアメリカにもたらそうとした未遂で、全く別の3人が逮捕されたと報じていました。一人はニュージャージーのアメリカ人、もう一人はパキスタン人、もう一人はフィリピン人です。それぞれ3人が、3つの事を計画していたのです。一人は、タイムズスクエアを爆破、もう一人はコンサート大襲撃、3人目は地下鉄の爆破です。私がこんなことを言う理由は、ISISの標的、彼らがラスベガスを標的と言っていて、公開したビデオのメッセージを見て、そしてその準備として64歳の個人が大量の武器をため込んでいた事を見て、それから、通常ISISは自分たちが行っていない事に対して、犯行声明を出さないと思っていたなら…カナダのエドモントンで、先週起こったテロ攻撃は、犯人の車の中にISISの旗があったのです。しかし、ISISは絶対に犯行声明を出し

ませんでした。彼らは、自分たちに関わりのない人物の犯行には責任を負いませんから。彼らにとって素晴らしいという理由で、犯行声明を出す可能性は当然 1% ぐらいはあるかも知れません。しかし、私の目から見れば、私の知る限り、これはイスラムテロと多くの繋がりががあります。そして、過激派となった犯人（書記注：スティーブン・パドック容疑者。犯行後、警察の突入前に自殺）には、新しい名（Abu Abdal-Baral-Amriki）が与えられています。アラブ語で「アメリカ」ご存知の通り「アメリカ人」という意味です。私は、否定国家と呼んでいますが、サンバーナーディーノ（2015年12月、カリフォルニア州サンバーナーディーノの障害者支援施設で発生した銃乱射テロ）もオーランド（2016年6月、フロリダ州オーランドにあるゲイバーで発生した銃乱射テロ）も、彼らはテロとの繋がりを即座に否定しましたから。あれがテロであったことは誰もが知っていますが、今日の今日まで、誰一人として、あれがテロであったと明確にする人はいません。

【ジャン】それは、メディアと政府の人間が否定していますが、私たちのように、見張り人の情報に頼っている人間には、否定出来ません。JD先生、彼の意見に賛成ですか？

【JD牧師】はい。ニューヨークのオンラインメンバーとメールをやり取りしていた時に、——彼はニューヨーク市警の爆破部隊、対テロ班の人ですが、その彼が、とても興味深いことを言っていました。

「イスラム国は…」

申し訳ありませんが、私は、頭文字で呼びたくないのです。あれは、イスラエルの頬を打つ行為だと思っていますから。レバントという言い方は、特にです。だから、私は、イスラム国と呼びますね。ともかく、彼の視点で言った事がとても興味深く、つじつまが合うのです。彼が言うには、

「彼らは、自分たちが行っていない事に対しては、絶対に犯行声明を出さない。そうでなければ、自分たちが本物である信頼を失くすからです。彼らは、カリフの名誉にかけて、それを失うことは出来ないのです。」

【アミール】それから、彼らが犯行声明を出すただちに、アラブ諸国の人々がインターネットで、彼らに問い始めたのです。

「彼がカリフの兵士であったという証拠を出せ。」

それは、アラブ人までもが、アメリカのメディアの「何も関わりがない」という情報を聞いているからです。そのために、彼らは2回目の犯行声明を公開しました。その中で、この男はこの数か月の間に、過激派の影響を受けた詳細を伝え、これは計画的犯行だったのだ、と伝えたのです。それは、彼のイスラム殉教者としての名前で、それは、ある規模の事を実行した特定の人に与えられるものです。彼らはそれをする事で、更に上に行って、

「これは我々の想像ではなく、我々は知っているのだ！」

「これは、そのものだ！」

と言っているのです。見ての通り、私たちは専門家ではありませんよ。ただ、一般のメディアを頼っている限り、それは絶対に見えません。

【ジャン】先ほど、いくつかの問題を提示していただきましたが、それが確かなら知っているに越した

ことはありません。ただ、今は実に困難な時代で、周りで起きていることを見ると、不安になるな、と言う方が無理でしょう。私たちは霊的には贖われていますが、人の怒りからは逃げられません。そしてそれらは、至る所で制御を失っています。何か、私たちの励みとなる言葉をお願いできますか？私たちを取り囲んでいる闇についてだけ、話すので終わりたくはありません。闇が暗ければ暗いほど、光は明るく輝きますから。

【JD 牧師】今日の私の講演の締めくくりは、第一テサロニケ 4 章で使徒パウロが、疲れ切って弱っているテサロニケの人々へ伝えた、励ましの言葉で終わろうと思っています。彼らテサロニケのクリスチャンたちは、もう少しで絶望しそうなほど葛藤していたのです。それに対して、使徒パウロは心から励ましています。もちろん、これは意識ですが、

「皆、どうか希望のない人のように悲しまないで、携挙が起こるのだ」と。そして、パウロは、これから起こることを伝えています。

「キリストにある死者がまず初めによみがえり、そして私たち生きている者が…」
ここで私の主張に戻りますが、これがなければ、私は気が狂っています。頭がおかしくなって、全ての希望を失っていたでしょう。しかし、ラッパがいつでも鳴り得ると知っていることで…それを楽しみに、そこに目を向けていると、どんな困難に直面しても、乗り越えるのが物凄く容易になります。ところで、私たちが聖餐式を祝う時はいつでも、私たちの救い主は次のことを想定して言われたのだと、私は信じています。

「わたしを覚えてこれを行いなさい。」

と言われた主のことばを、私は

「あのラッパの音が鳴れば、これが天の御国で最終的に成就される。そして、わたしはその日を心から待ち望んでいるのだよ。だから元気を出しなさい。そして、互いに励まし合いなさい。それほど悪くなるのだ。」

と言っておられると解釈しています。

【ジャン】その通りですね。「互いに励まし合いなさい。」実に闇の日々ですが、互いに励まし合いましょう。それから皆さん、Pastor JD の預言アップデートと Behold Israel.org を是非ご覧ください。これからは出来る限りアップデートしていきます。今日はご覧いただきありがとうございました。

メッセージ by

Jan Markell / Olive Tree Ministries : <https://www.olivetreeviews.org>

Amir Tsarfati / Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>

J.D. farag/ カルバリーチャペル カネオへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com>